サラはアブラハムを主と呼んだ

フィリップ・B・ペイン（Philip B. Payne）・ドイツ語訳：Hans-Jörg Ronsdorf・2022年11月・2026年10月改訂

結婚における夫と妻の関係についての、ペテロの手紙第一3章に関する短い解説。フィリップ・B・ペイン（Philip B. Payne）、Twitter、2022年11月

ペテロの手紙第一3章6節で、サラが自分の夫を「主」と呼んだこと、そして彼女がペテロの語りかけているキリスト者の女性たちの模範であることは、何を意味しているのでしょうか。これは、結婚におけるかしら（頭）であることや権威の意味を示しているのでしょうか。そうではありません。

> **1 同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです。2 それは、あなたがたの、神を恐れる清い生き方を目にするからです。3 あなたがたの飾りは、髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりする外面的なものであってはいけません。4 むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人を飾りとしなさい。それこそ、神の御前で価値あるものです。5 かつて、神に望みを置いた敬虔な女の人たちも、そのように自分を飾って、夫に従ったのです。6 たとえば、サラはアブラハムを主と呼んで従いました。どんなことをも恐れないで善を行うなら、あなたがたはサラの子です。**

ここでペテロがサラに言及しているのは、実に興味深いことです。というのは、聖書の中でサラがアブラハムを自分の主と呼んでいる箇所はただ一つしかなく、それは、彼女が自分に息子が生まれるという神の訪問者たちの預言を聞いて笑う場面だからです。

「サラは笑いながら考えた。『私がすっかり衰えてしまい、私の主も年老いているのに、私にまだこの楽しみがあるでしょうか。』」（創世記18:12）。一見すると、これはペテロが、私たちが従うべき模範として挙げるには奇妙な箇所です。

ペテロは創世記ではなく、『アブラハムの遺訓』という書物に言及しているのだ、と提案した人々もいます。私は最近この考えを検討しました。ペテロが『アブラハムの遺訓』を手にすることができたかどうかは疑わしいと思います。この書はおそらく一世紀か二世紀になってようやく成立したものです。さらに、「わが主アブラハム」への言及のどれ一つとして、ペテロの言及を説明できるような、従順という文脈の中にはありません。ですから私は、答えは創世記18章の中に見いださなければならないと考えます。まずは、ペテロの手紙第一からの重要な文脈です！

ペテロは、キリスト者にとって大きな困難と苦しみの時代に、キリスト者でない夫と結婚しているキリスト者の妻たちに助言を与えています。ペテロは、キリスト者が敵対的な世界の既存の社会構造の中でどのように生きるべきかについて、さまざまな場面を取り上げてきました。

（これは、彼がこうした社会構造のすべてを良しとしているという意味ではありません！）**結婚の話に移るとき、彼が妻たちの服従について挙げている理由は、女性が劣っているとか、下位にあるとか、別の役割を持っているということではありません。**

女性が簡単に家を出て行く可能性を持たず、夫が妻にキリストを捨てるよう命じることのできた世界において、女性たちは、キリストについての静かな証しによって、異教徒の夫を勝ち取ることができたのです。では、創世記18章はこのこととどう関係しているのでしょうか。サラが楽しみ、あるいは喜びについて語るとき、彼女が意味しているのは夫との性的な関係であり、それは子どもを授かる喜びにつながるかもしれないものでした。サラはイサクを身ごもったのですから、明らかに彼女はアブラハムとともにこの過程に加わり、預言に従ったのです。

このことが示しているのは、ペテロが、この文化の中で異教徒の夫との間に子どもをもうけることを恐れていたかもしれないキリスト者の妻たちに、それを恐れる必要はないと保証している、ということです。これは、コリント人への手紙第一7章14節のパウロのことばを思い起こさせます。「そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れていることになりますが、実際には聖なるものです。」

ペテロの手紙第一も、アブラハムとサラの物語も、階層的な結婚の規範を打ち立てるのにふさわしいものではありません。ペテロは、困難な状況にある（そして、私たちが確認しなければならないように、彼女たちに選択肢を与えない文化の中にある）キリスト者の女性たちに、牧会的な助言を与えているのです。

7節でペテロはキリスト者の妻と結婚しているキリスト者の夫たちに向かい、初めて特にキリスト教的な結婚について語っています。

まさにそのとおりです！聖書の中では、アブラハムはサラに従うように言われていますが、その逆は一度もありません。七十人訳聖書は、創世記16章2節でアブラハムがサラに従ったことについて、ペテロの手紙第一3章6節でサラの従順について用いられているのと同じ語を用いています。

> **2 サライはアブラムに言った。「ご存じのように、主は私が子を産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。おそらく、彼女によって私は子を得て、家を建てられるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。**

ペテロの手紙第一3章7節で、ペテロはキリスト者の妻を持つキリスト者の夫たちに向かい、**彼らに、自分の妻に従うように求めています。**重要なのは、この節には主動詞がないということです。翻訳はこのことをさまざまな仕方で処理してきました。

> **7 同じように、夫たちよ、妻を女性という、より弱い器として、知識に従って妻とともに住み、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りが妨げられません。**

前置詞句の修飾語「kata gnōsin」を、まるで動詞であるかのように、たとえば「思いやりを持つ」と訳したものさえあります。「kata gnōsin」は動詞ではありません。そしてそれは「思いやりを持つ」という意味でもありません。

ペテロはこう書いています。「同じように、夫たちよ……」。主動詞のないこの「同じように」（homoiōs）は、この文がいわば動詞を借りていることを私たちに告げています。彼は、先行する命令と並行する何かを求めているのです。

先行する三つの段落はどれも、同じ動詞「hypotassō」を用いて、「従う」ようにという命令で始まっています。文脈が提供している唯一の命令は「従う」ことであり、もう一度「従う」ことが、3章7節に完全に合致します。

「同じように［homoiōs］自分の夫に従う妻たち」と「同じように［homoiōs］従う夫たち」との緊密な並行関係は、当然、「同じように［自分の妻に］従う夫たち」を意味しています。

では、妻が「より弱い器」であるという事実についてはどうでしょうか。これにはいくつかの意味が考えられます。

第一に、女性は平均して男性よりも身体的に弱いということです。夫たちはこの力を自分の利益のために用いるべきではなく、むしろ思いやりと敬意をもって妻を扱うべきです。

第二に、それはこの文化における女性の弱い社会的地位を指しているのかもしれません。その地位が女性をより傷つきやすいものにしていました。「妻を尊敬しなさい」というペテロの指示には、社会的地位を表すギリシア語が用いられています。

従うことと尊敬することの命令の重大さを強調するために、ペテロはさらに「何もあなたがたの祈りを妨げることがないように」と付け加えています。結婚における相互性は、神にとって重要なのです。

典型的なキリスト教的結婚についてのペテロのビジョンは、相互性（ミューチュアリティ）の結婚です。そこでは夫婦が互いに愛し合い、敬い合い、互いに従い合い、互いを共同相続人として認め合い、信仰において互いに築き上げ合うのです。

ドイツ語訳：Hans-Jörg Ronsdorf、アウクスブルク、2022年11月8日